

学会記事

I. 運営委員会報告

2009年9月20日から10月2日にかけて、メール審議により2009年度学会各賞の受賞候補者について審議し、受賞者を決定した。

2009年10月31日に鳥取大学（鳥取市）において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2008年度収支決算（案）について審議した。
2. 2009年度収支予算（案）について審議した。
3. 植生学会誌の電子化公開について審議し、20巻1号以降について国立情報学研究所が運営する論文情報ナビゲータCiNiiを利用して一般無料公開することとした。
4. 編集委員会による植生学会誌「投稿規定」および「執筆要領」の改訂を承認した（別掲1および2）。
5. 学会賞受賞者の受賞講演について審議し、大会中に受賞講演を行うこととした。それにともない、次回より受賞候補者の募集および選考時期を早めることとした。
6. 会員への情報伝達の効率化について審議し、ワーキンググループを設置して具体策を検討することとした。
7. 第15回大会の開催について審議し、2010年9月に「北海道立道民活動センター（かでの27）」（札幌市）で開催することとした（一般講演は9月12日）。

II. 編集委員会報告

2009年10月31日に鳥取大学において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生学会誌投稿規定の改訂（案）について審議した。
2. 植生学会誌執筆要領の改訂（案）について審議した。

III. 企画委員会報告

2008年12月17日および2009年2月24日に自然環境研究センター（東京都台東区）において臨時の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. シカ影響アンケート調査の実施方法について審議した。
2. シンポジウム「日本の自然林へのシカの影響を考える」の開催について審議した。

2009年10月31日に鳥取大学において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 実施中のシカ影響アンケート調査の今後の進め方について審議した。
2. 生態学会自由集会「群落談話会」について報告、審議した。

IV. 表彰委員会報告

2009年10月31日に鳥取大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 研究発表賞の実施に関する事項について審議した。
2. 学会賞受賞者の受賞講演の実施について審議した。

V. 2009年度総会報告

2009年11月1日に鳥取大学において2009年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

別掲1. 植生学会誌投稿規定改訂条項

旧（下線は削除）	新（下線は追加・改訂箇所）
——<前略>——	——<前略>——
2. 原稿の種別は、原著論文、短報、総説、解説・意見、資料・報告、その他（書評、学会記事など）とする。このうち、解説・意見、資料・報告については、原則として植生情報に掲載する。ただし、編集委員会が植生学会誌への掲載を認めたものについてはこの限りではない。原稿種別の基準等については学会ホームページの案内を参照すること。	2. 原稿の種別は、原著論文、短報、総説、解説・意見、資料・報告、その他（書評、学会記事など）とする。このうち、解説・意見、資料・報告については、原則として植生情報に掲載するが、編集委員会が植生学会誌への掲載を認めたものについてはこの限りではない。原稿種別の基準等については学会ホームページの「 <u>原稿の種別</u> 」を参照すること。
——<中略>——	——<中略>——
6. 原稿は次のAまたはBの何れかの方法で作成して送付しなければならない。原稿には必要事項を記入した最新の投稿原稿送付状を添付すること。	6. 原稿は次のAまたはBの何れかの方法で作成して送付し、必要事項を記入した最新の投稿原稿送付状を添付すること。
A. 本文と図表、投稿原稿送付状を1つのPDFファイルにまとめて電子メール（原則として3MB以内）で送付する。メールで投稿する際の件名およびファイル名は「SVS-○○○○」（○○は投稿者のローマ字姓）とする。	A. 本文等と図表、投稿原稿送付状を1つのPDFファイルにまとめて電子メール（原則として3MB以内）で送付する。メールで投稿する際の件名およびファイル名は「SVS-○○○○」（○○は投稿者のローマ字姓）とする。
B. 本文、図表の全てを3部（コピー可）作成して、投稿原稿送付状とともに郵送する。	B. 本文等と図表の全てを3部（コピー可）作成して、投稿原稿送付状とともに郵送する。
——<中略>——	——<中略>——
8. 論文の著作権は植生学会に帰属する。図表の転載は学会の許可を受けること。	8. 掲載論文の著作権は植生学会に帰属する。内容物の転載は学会の許可を受けること。
——<中略>——	——<中略>——
付則1. この規定は2007年10月7日より適用する（2007年10月6日改訂）。	付則1. この規定は2009年11月1日より適用する（2009年10月31日改訂）。
——<後略>——	——<後略>——

別掲2. 植生学会誌執筆要領改訂条項

旧 (下線は削除)	新 (下線は追加・改訂箇所)
<p>1. 原著論文、短報、総説は和文または英文とし、次の順序で記述する。 ——<中略>——</p> <p>5. 論文中に引用できるインターネット上の資料は、原則として情報の永続性が保たれているものに限る。電子ジャーナル化された学術誌の引用と、国、自治体、またはこれらに準ずる公的機関が管理しているデータベースの引用を認める。これら以外の資料を引用したいとの申し出が著者からあった場合は、編集委員会で個別に検討する。引用した電子ジャーナルは、引用文献リスト中に他の印刷物と同様の形式で記述する。電子ジャーナルの発行者が指定する書式がある場合は、その情報を必ず含むようにすること。データベースの引用にあたっては、本文中に管理者（発行者）、データベースの名称、アドレス、参照年月を明記し、引用文献のリストには記載しないこと。記述は下記の例および最新号の形式に準ずる。 ——<中略>——</p> <p>7. 英文原稿は、A4版の白紙に上下各3 cm、左右各2.5 cm程度をあげ、約65文字、25行を1ページとする。なお、各ページ左余白に行番号を打ち、下部余白中央にページ番号を振ること。 ——<中略>——</p> <p>12. 原著論文は刷り上がり12ページまで、短報、資料・報告は6ページまで、総説は16ページまで、解説・意見は8ページまでを無料とし、超過分は著者の負担で掲載することができる。超過ページ印刷代は1ページにつき9,000円とする。</p> <p>13. 図、表等は1枚ずつ別紙に書き、著者の責任において作製すること。また、各図表の挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること（最終原稿では朱書き）。</p> <p>14. 図、表、写真等のカラー印刷は所定の料金とし、著者の負担とする。</p> <p>15. 図の説明は別紙にまとめ、和文原稿の場合は引用文献に続くページ数を、英文原稿の場合は要約に続くページ数を振ること。</p> <p>16. 表の説明は表の上部に書くものとする。</p> <p>17. 1ページに収まらない表は、著者の負担で折り込みとすることができる。</p> <p>18. 最終原稿および原図、写真等は、原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること。その際にこれらを保存したフロッピーディスク、CD等（アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること）を添えること。</p> <p>19. 著者校正は原則として初校に限って行い、誤植の訂正にとどめる。</p> <p>20. 別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる。これを超える別刷およびPDF版の別刷は実費を著者が負担して作製する。別刷の必要部数（無料分を含む50部単位）とPDF版別刷の要・不要を投稿原稿送付状に明記すること。</p> <p>付則1. この要領は2007年10月7日以降に投稿された原稿に適用する（2007年10月6日改訂）。 ——<後略>——</p>	<p>1. 原著論文、短報、総説は和文または英文とし、<u>原稿は次の順序で記述する。なお、各項目間は1行あけること。</u> ——<中略>——</p> <p>5. 論文中に引用できるインターネット上の資料は、原則として情報の永続性が保たれているものに限る。永続性の判断が困難な資料の引用については、<u>編集委員会の指示に従うこと。電子ジャーナルは引用文献に他の印刷物と同様の形式で記載する。データベース等は引用文献には記載せずに、本文中に下記の例に準じて記載する。</u> ——<中略>——</p> <p>7. 英文原稿は、A4版の白紙に上下各3 cm、左右各2.5 cm程度をあげ、<u>約80文字、30行を1ページとする。</u>なお、各ページ左余白に行番号を打ち、下部余白中央にページ番号を振ること。 ——<中略>——</p> <p>12. 原著論文は刷り上がり12ページまで、短報、資料・報告は6ページまで、総説は16ページまで、解説・意見は8ページまでを無料とし、<u>原著論文と総説以外は原則としてこのページ数を超えないものとする。超過分については、編集委員会が認めた場合に限り、著者の負担で掲載することができる。超過ページ印刷代は1ページにつき9,000円とする。</u></p> <p>13. <u>投稿時における原稿量の基準は、表題およびAbstract、本文等、図の説明、図表を含む総原稿枚数で、短報、資料・報告は15枚以内、解説・意見は20枚以内とする（ただし本要領6, 7, 14, 16項を満たすこと。A4版用紙に収まらない図表はその実枚数とする）。原稿量がこれらの基準を超える場合は、編集委員会の指示に従うこと。原著論文と総説は原稿量に制限を設けない。</u></p> <p>14. <u>図、表等は1枚ずつ別紙に書き、著者の責任において作製すること。また、図表の欄外余白に図表番号を振るとともに、各図表の挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること（最終原稿では朱書き）。</u></p> <p>15. <u>図、表、写真等のカラー印刷は所定の料金とし、著者の負担とする。料金については学会ホームページを参照すること。</u></p> <p>16. <u>図の説明は別紙にまとめ、和文原稿の場合は引用文献に続くページ数を、英文原稿の場合は要約に続くページ数を振ること。</u></p> <p>17. 表の説明は表の上部に書くものとする。</p> <p>18. <u>1ページに収まらない表は、著者の負担で折り込みとすることができる。料金については学会ホームページを参照すること。</u></p> <p>19. <u>最終原稿および原図、写真等は、原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること。その際にこれらを保存したフロッピーディスク、CD等（アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること）を添えること。</u></p> <p>20. <u>著者校正は原則として初校に限って行い、誤植の訂正にとどめる。</u></p> <p>21. <u>別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる。これを超える別刷およびPDF版の別刷を希望する場合は著者の負担で作製する。別刷の必要部数（無料分を含む50部単位）とPDF版別刷の要・不要を投稿原稿送付状に明記すること。</u></p> <p>付則1. この要領は2009年11月1日以降に投稿された原稿に適用する（2009年10月31日改訂）。 ——<後略>——</p>

A. 報告事項

1. 学会事務局

2009年10月20日現在の会員数(正会員567名, 団体会員13団体, 賛助会員1団体)が報告された。

2. 各種委員会

上記 I.-IV. の運営委員会および各種委員会の審議事項が報告された。

B. 承認事項

1. 2008年度収支決算(別掲3)を承認した。

2. 2009年度収支予算(別掲4)を承認した。

C. その他

1. 第15回大会開催地となる北海道大学の富士田裕子氏より, 多数会員の参加が要請された。

VI. 学会賞

2009年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり。授与式は2009年11月1日に行われ, 各賞受賞者に表彰状と記念品が福島司会長から贈呈された。

植生学会賞

中西弘樹(長崎大学教育学部)

別掲3. 植生学会2008年度収支決算

(単位: 円)

収入の部	予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し	4,374,804	4,374,804	0	
会費	3,358,000	3,643,000	-285,000	
バックナンバー売り上げ	200,000	189,000	11,000	
雑収入	40,000	545,309	-505,309	
		(57,484)		内訳1: 著作権使用料など
		(487,825)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ・英文校閲料の立替
利息	500	1,318	-818	
計	7,973,304	8,753,431	-780,127	
支出の部	予 算	決 算	差 異	備 考
植生学会誌刊行費 900,000円×2回	1,800,000	1,782,330*	17,670	*第25巻1号・2号
植生情報刊行費 400,000円×1回	400,000	493,605*	-93,605	*第12号
学会事務局経費	850,000	716,533	133,467	
編集事務局経費	150,000	64,182	85,818	
植生情報編集費	40,000	0	40,000	
企画委員会経費	300,000	47,160	252,840	
大会補助費	350,000	300,000	*50,000	*第13回大会
予備費	4,083,304	323,483	3,759,821	
		(118,023)		内訳1: 第15回大会会場使用料
		(205,460)		内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ・英文校閲料の立替
計	7,973,304	3,727,293	4,246,011	
収支差額(繰り越し)	0	5,026,138	-5,026,138	

別掲4. 植生学会2009年度収支予算

(単位: 円)

収入の部	2009年度	2008年度	差 異	備 考
前期繰り越し	5,026,138	4,374,804	651,334	
会費	3,384,000*	3,358,000	26,000	*一般496, 学生67, 団体13, 賛助1
バックナンバー売り上げ	200,000	200,000	0	
雑収入	500,000	40,000	460,000	
利息	500	500	0	
計	9,110,638	7,973,304	1,137,334	
支出の部	2009年度	2008年度	差 異	備 考
植生学会誌刊行費 900,000円×2回	1,800,000*	1,800,000	0	*第26巻1号・2号
植生情報刊行費 400,000円×1回	400,000*	400,000	0	*第13号
学会事務局経費	700,000	850,000	-150,000	
編集事務局経費	150,000	150,000	0	
植生情報編集費	40,000	40,000	0	
企画委員会経費	600,000*	300,000	-300,000	*第7回シンポジウム
表彰委員会経費	150,000	0	150,000	
大会補助費	350,000*	350,000	0	*第14回大会
予備費	4,920,638	4,083,304	837,334	
計	9,110,638	7,973,304	1,137,334	

上條隆志 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)
 植生学会奨励賞
 松村俊和 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科/兵庫県淡路県民局)
 植生学会功労賞
 菊池多賀夫 (元横浜国立大学)
 植生学会特別賞
 井上香世子 (元箱根町立箱根湿生花園)
 植生学会研究発表賞
 口頭発表賞
 塩野貴之 (横浜国立大学大学院環境情報研究院)
 「森林帯の垂直分布と樹種多様性」
 ポスター発表賞
 飯島浩史 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)
 「本州中部奥鬼怒地域の溪畔域におけるウラジロモミの侵入・定着過程」

VII. 植生学会第14回大会報告

植生学会第14回大会(実行委員長:日置佳之)が,2009年10月31日から11月2日にかけて鳥取大学鳥取キャンパスにおいて開催された(下記日程).一般講演では口頭23題,ポスター34題の発表が行われた.参加者は予約申込者129名,当日参加者32名の計161名であった.

10月31日:各種委員会,運営委員会

11月1日:一般講演(口頭発表・ポスター発表),学会賞授与式,総会,懇親会

11月2日:エクスカージョン(伯耆大山周辺)

一般講演は以下のとおりであった.

<口頭発表>

- A01 仙台市堂所の里山農家における屋敷と背戸山の景観生態学的描写. 平吹喜彦・伊藤ひかる(東北学院大・教養)・最知智美(宮城教育大・院・環境教育実践)・遠藤陽子(宮城教育大・自然環境)・内山槇子(東北学院大・教養)
- A02 潜在自然植生が異なる都市域に成立した植生景観の比較研究. 服部千代子(横浜国大・院・環情学府)・大野啓一(横浜国大・院・環情研院)
- A03 離岸堤によって回復した海浜における群落構造の経年変化. 楠瀬雄三(NPO法人OPEN)・石川慎吾(高知大・理)
- A04 鳥取大学構内における鳥類の利用の季節性と植生の構造の関係. 村田麻理恵(鳥取大・院・地域)・中森純也(鳥取大・農)・永松大(鳥取大・地域)
- A05 秩父多摩甲斐地域を中心とする山地帯,亜高山帯草原に与えるニホンジカの影響. 大津千晶(東京農工大・院)・星野義延(東京農工大・院・共生科学技術)・末崎朗(新潟県庁)
- A06 四国剣山系三嶺の稜線部に発達するミヤマクマザサ群落へのニホンジカの食害と防鹿柵による回復状況. 石川慎吾・久住稔(高知大・理・生)・坂本彰(三嶺の森をまもるみんなの会)
- A07 シカ採食圧傾度による落葉広葉樹林の構造と種組成の差異-日光国立公園における許容限界密度指標作成の試み-. 吉川正人・今福寛子・今井亮・小原由起(東京農

工大・農)

- A08 九州中南部の溪畔・河畔域におけるハルニレの分布. 佐藤妙・伊藤哲・宗円典久(宮崎大・農)・光田靖(森林総研・資源解析)
- A09 放棄水田における水辺植生再生のための埋土種子評価-狭山丘陵の事例-. 北川久美子(信州大・院・工学系研究科)・島野光司(信州大・理)
- A10 猿払川湿原中流域のムセンゲが生育する湿原の植生. 加藤ゆき恵(北海道大・院・農)・富士田裕子(北海道大・FSC・植物園)・井上京(北海道大・院・農)・五十嵐八枝子(北方圏古環境研究室)
- A11 絶滅危惧植物チョウジソウ(*Amsonia elliptica*)の生育環境特性及び分子系統地理. 加川敬祐(北海道大・院・農)・富士田裕子・東隆行(北海道大・FSC・植物園)
- A12 森林帯の垂直分布と樹種多様性. 塩野貴之・小出大・持田幸良(横浜国大・院・環境情報)
- B01 開聞岳における植生図とシイ個体の分布範囲の比較. 小林悟志(情報システム研究機構・新領域融合研セ)
- B02 琉球と台湾の亜熱帯照葉樹林とその温度領域の対比. 大野啓一(千葉県立中央博物館)
- B03 シデコブシ群落の成立する丘陵地の谷底とその植生について. 後藤稔治(岐阜県博物館)
- B04 浜頓別クッチャロ湖の水生植物相とその分布について. 浜田拓・今野尚美・浅野浩史((株)地域環境計画)
- B05 農業水路における水生植物群落の季節変化に対する除草剤の影響. 池田浩明・石坂眞澄・山中武彦・細木大輔・稲生圭哉・山本勝利(農環技研)
- B06 藁撒き工法による河川堤防草原の修復. 星野義延(東京農工大・院・共生科学技術)
- B07 荒廃した泥炭地湿原での地盤掘り下げによる植生復元実験. 富士田裕子(北海道大・FSC・植物園)
- B09 土石流災害時における流木の挙動-平成21年7月中国・九州北部豪雨-. 佐々木寧(埼玉大・院・理工)
- B10 地域植生図の作成について(中国地方北東部の事例). 中尾茂樹・則行雅臣(中外テクノス(株))・森定伸((株)ウエスコ)・波田善夫(岡山理科大)
- B11 地球温暖化と海流散布植物の分布北上-日本本土における熱帯・亜熱帯起源の漂着発芽植物. 中西弘樹・楠目安由(長崎大・教育)・南谷忠志(宮崎市)・小川誠(徳島県立博物館)
- B12 ウラル山脈南東部南アルカйм生態保護区周辺の植生景観. 沖津進(千葉大・院・園芸)・Valentina Prikhodko(IPCBPSS RAS)・松島未和・犬伏和之(千葉大・院・園芸)
- <ポスター発表>
- P01 照葉樹林における維管束着生植物の群集構造:種の共起パターンの階層性. 平田晶子(森林総研)・上條隆志(筑波大・生命環境)・齋藤哲(森林総研)
- P02 アズマネザサの優占した耕作放棄地における樹木実生の生残・死亡. 徳岡良則(農環研, 広島大・院・国際協力)・大東健太郎(農環研)・中越信和(広島大・院・国際協力)
- P03 本州中部奥鬼怒地域の溪畔域におけるウラジロモミの侵

- 入・定着過程. 飯島浩史・上條隆志・別所直樹(筑波大・生命環境)・津山幾太郎・小川みふゆ(森林総研)
- P04 富士山亜高山帯におけるスラッシュ雪崩による大規模ギャップ形成が遷移に及ぼす影響. 中野隆志・安田泰輔(山梨環境研)・三田村理子・山村靖夫(茨城大・理)・丸田恵美子(東邦大・理)
- P05 落葉広葉樹林と隣接したトドマツ人工林における広葉樹の種子散布. 今博計・明石信廣(北海道林試)・南野一博(北海道林試・道南)
- P06 モミとツガにおける空間分布パターン, 地形対応, 共存. 崙元道徳(京大・フィールド研)・Gregolio Angeles Perez (Colegio de Postgraduados, Mexico)・平山貴美子(京都府大・生命環境)
- P07 荒川中流域の高水敷におけるハリエンジュ群落の林分構造と種組成の特徴. 川西基博(立正大・ORC)・河内香織(埼玉大・理工)・米林伸(立正大・地球環境)・崎尾均(新潟大・農)
- P08 荒川中流域における河畔林構成樹木の分布特性. 比嘉基紀(横浜国大・環情)・川西基博(立正大・ORC)・崎尾均(新潟大・農)
- P09 三宅島 2000 年噴火後の樹木の侵入状況. 宮本雅人・上條隆志・川越みなみ(筑波大・生命環境)
- P10 スギ人工林の施業履歴・環境条件と植物多様性の関係. 永松大・長田知子(鳥取大・地域)
- P11 三重県における針葉樹人工林に侵入した広葉樹の種組成とその決定要因. 島田博匡・野々田稔郎(三重県林業研)
- P12 暖温帯におけるシカ生息密度の異なる針葉樹人工林伐採跡地の植生回復状況およびシカによる採食の選択性. 山川博美(宮崎大・院・農工)・伊藤哲・中尾登志雄(宮崎大・農)
- P13 栃木県箒川の火入れ管理された高水敷の植物相. 泉団・吉川正人(東京農工大・院・農)
- P14 長野県梓川氾濫原内のヤナギ科壮齡林における林床植生の違いが森林動態に与える影響. 若松伸彦・鈴木由香・武生雅明・山下実緒・中村幸人(東京農大・地域環境)・川西基博(立正大・ORC)
- P15 那須野ヶ原扇状地の農業用水路における水生植物相とその分布. 鈴木晴美・吉川正人・星野義延(東京農工大・農)
- P16 ハンノキ沼沢林における異なる人為的攪乱が及ぼす林床植生の変化. 日置佳之(鳥取大・農・FSC)・木村朋美(鳥取大・農)
- P17 ミズグケ属 3 種の水文立地環境. 藤村善安(北海道大・FSC・植物園)
- P18 北海道北見地方の流紋岩地域におけるミズナラ林の種組成と土壌. 板垣友規子(東京農工大・院・農)・星野義延(東京農工大・共生科学技術)・佐藤謙(北海道学大)
- P19 中国山地東部地域におけるシオジ林とサワグルミ林の分布とその要因. 近藤博史・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)・磯谷達宏(国土館大・地理)
- P20 茨城県北部の照葉樹林分布限界域における二次林の分布および組成と構造について. 岩崎慶太(国土館大・院・地理)・磯谷達宏(国土館大・地理)
- P21 東南アジアの亜熱帯林の位置づけについて. 村上雄秀(IGES 国際生態学センター)
- P22 市街地の法面における植物群落の遷移と外来種・園芸種の侵入に関する研究. 前川恵美子・武田義明(神戸大・院・人間発達環境学)
- P23 九州地方の舗装路面間隙に分布・侵入する植物の種特性. 早坂大亮(日本工営)・宮内大策(横浜国大・環境情報)・内田泰三(九産大・工)
- P24 手賀沼流域におけるナガエツルノゲイトウの分布拡大. 齋藤康宏・富田瑞樹(東京情報大)・林紀男(千葉中央博)・原慶太郎(東京情報大)
- P25 関東地方の生育地におけるタチスミレの密度と体サイズ構成. 澤田みつ子(筑波大・生命環境)・小幡和男(茨城県自然博)・上條隆志・中村徹(筑波大・生命環境)
- P26 QuickBird 衛星画像を用いたアンコール遺跡に残存する樹木群集の評価. 富田瑞樹(東京情報大・総合情報)・平吹喜彦(東北学院大・教養)・荒木祐二(東大・アジア生物資源)・ボラリー(APSARA)・パオハン(APSARA)・塚脇真二(金沢大・環日本海セ)
- P27 静岡県熱海市および隣接地域に分布するハコネダケ群落の消長動態の分析・評価. 加藤正士(横国大・院・環情学府)・大野啓一(横国大・院・環情院)
- P28 千葉県における希少種の分布を規定する環境要因と地史的要因. 牛腸剛己・富田瑞樹・原慶太郎(東京情報大)
- P29 西シベリアの森林ステップにおける鳥類営巣地の植生. 竹原明秀(岩手大・人文社会)
- P30 韓国(南西部島嶼・済州島)と日本(九州北西部・対馬)に分布するカシ林の植物社会学的研究. 李晟齊(横国大・院・環情学府)・大野啓一(横国大・院・環情研院)・宋鍾碩(韓国安東大・生命)
- P31 モンゴル・グレートゴビ A 嚴重保全地域の植生. 程云湘(鳥取大・乾地研)・浅野真希(筑波大・生命環境科学等支援室)・伊藤健彦(鳥取大・乾地研)・Undarmaa Jamsran(モンゴル農業大・生態研セ)・篠田雅人(鳥取大・乾地研)
- P32 モンゴル北部ヘンティ山地におけるシベリアカラマツ林の動態—林分構造と地形的位置との関係—. 助野実樹郎(北海道大・院・環境)・石川守(北海道大・院・地球環境)・太田遥・小野智郁・中坂高士(北海道大・院・環境)・D. Battogtokh(モンゴル国立地理研)
- P33 中国・新疆ウイグル自治区北部草原地帯における植物社会学的研究. 鈴木康平(筑波大・生物資源)・努尔巴衣阿布都沙力克(新疆大学・資源与環境)・中村徹(筑波大・生命環境)・上條隆志(筑波大・生命環境)・川田清和(筑波大・北アフリカセンター)・阿布都沙拉木加拉力丁(新疆大学・資源与環境)
- P34 蒜山地域の火入れ地における地形と植生の対応. 増井太樹(鳥取大・院・農)・佐野淳之(鳥取大・農・FSC)

VIII. シンポジウム報告

2009 年 7 月 4 日に東京農業大学(東京都世田谷区)において第 7 回植生学会シンポジウム「日本の自然林へのシカの影響を考える」を開催した(共催: 野生生物保護学会/後援: 環境省, 日

本生態学会、日本自然保護協会)。参加者は143名であった。講演は次のとおり。

〈講演〉

1. 宮崎県綾町における照葉原生林へのシカの影響について。服部保 (兵庫県立大学)
2. 北海道の夏緑広葉樹林などへの影響。石川幸男 (専修大学 北海道短大)
3. 南アルプスにおけるシカ被害。元島清人 (林野庁中部森林管理局)
4. 知床におけるシカの影響低減のための生態系管理について。梶光一 (東京農工大学)

〈パネルディスカッション〉

パネラー: 東岡礼治 (環境省自然環境局), 鶴飼一博 (南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク), 服部保, 石川幸男, 元島清人, 梶光一

IX. シカ影響アンケート調査

2008年4月より、シカの植生への影響の地理的な広がりや被害の現状を明らかにするため、シカ影響アンケート調査を開始した (趣意書とチェックシートを学会員に配布, 学会ウェブサイトに掲載)。植生学会14回大会 (鳥取大学; 2009年10月31日~11月2日) においてシカ影響アンケート調査の概要発表 (口頭), 中間報告 (ポスター), 記録方法のデモンストレーション (エクスクーション時) を行った。